

メイ首相を襲ったハプニング

発表日：2017年10月6日(金)

～党の結束アピールも前途多難～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ 4日に終わった保守党党大会で英国のメイ首相は党の結束アピールに腐心した。ジョンソン外相の謀反は鎮圧されたが、党内には今も首相の退陣を求める動きが散見され、党をまとめるのは容易でない。党首選による離脱協議の中断や労働党に政権を奪われる恐怖が不満分子の動きを封じ込めている。

英国の与党・保守党は10月1～4日の党大会を終え、メイ首相の離脱方針に異を唱えたジョンソン外相が一転して首相に恭順の意を示した一方で、一部議員の間で首相の退陣を求める動きが広がっている。Bloombergは6日、5人の元閣僚を含む保守党議員が新たな党首の選任を求めて署名を集めていると報じた。保守党の党首選は、①15%以上の下院議員（現在の議席では47名）が党首の不信任の署名を提出するか、②党首自らが退任の意向を表明した場合に行われる。現時点で首相の退陣を要求する議員は47名に満たない模様だが、6月の議会選で大幅に議席を失って以来、首相のリーダーシップの凋落が著しい。保守党の党首選は、議員投票で2名まで候補を絞り込んだ後、党員投票で勝者を選ぶ。昨年6月の国民投票直後に辞意を表明したキャメロン前首相の後を引き継ぎ、メイ首相が保守党党首に選ばれた際は、議員投票で2名に絞り込まれた段階で対立候補が辞退したため、早期に決着がついた。だが、過去の例では2ヶ月程度の時間を要することが多い。EUとの離脱協議が重要な局面を迎えるなか、2ヶ月余りも協議が事実上中断すれば、協議の行方に不安が広がることは避けられない。

メイ首相の首相就任時がそうであったように、与党・保守党の党首が交代しても、総選挙を前倒しする必要はない。2011年に議会任期固定法が施行され、5年の任期満了前に下院選を前倒しするのは、①下院定数の3分の2以上が解散を支持するか、②下院で内閣不信任案が可決され、14日以内に別の内閣が信任されない場合に限られる。6月の前倒し総選挙以来、大多数の世論調査で野党・労働党の支持率が与党・保守党を上回っている。仮にメイ首相に代わる保守党党首が就任した場合も、自ら議会を解散するインセンティブは見当たらない。ただ、現在の保守党政権は議会の過半数の議席を失い、北アイルランドの保守系地域政党・民族統一党（DUP）の閣外協力で保たれている。新党首が党内をまとめ切れなかったり、DUPとの関係が悪化すれば、前倒し総選挙の可能性が浮上する。この場合、離脱協議の中断はさらに長引き、時間切れリスクが高まる。

メイ首相は先月、停滞するEUとの離脱協議の現状を打破するため、イタリアのフィレンツェで演説し、従来よりもEU側の要求に歩み寄る姿勢を示した。欧州諸国は今のところ協議を次の段階に進めるだけの十分な進展がないとの立場を崩していないが、英国側の譲歩を概ね好意的に受け止めている。今後の協議を占ううえで、今回の党大会で党内の意見対立をメイ首相が封じ込められるかどうか注目していた筈だ。首相は保守党党大会の演説で離脱協議を前面に出すことを避け、党の結束をアピールしようとした。ただ、首相の政権運営や離脱方針に対する不満が党内には燻っており、国内の調整は難航が予想される。党大会

では、メイ首相を待ち構える困難を象徴するかの場面もみられた。演説の冒頭に乱入したコメディアンが偽の解雇通知書を首相に手渡し、演説中も咳が止まらなくなり度々演説の中断を余儀なくされ、演説後半には演壇の背後に掲げてあったスローガンの文字が次々と落下するハプニングに相次いで見舞われた。こうした首相の姿を側近は逆境に立ち向かう様と重ね合わせたが、首相の政権運営の難しさを暗示しているようではない。

以上